



社会福祉法人 薄光会 広報紙

# ま ら め き



東京湾に沈む夕日

第24号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成22年12月20日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく

ケアホームCOCO : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3

TEL 0439-67-3711

豊岡光生園 : 〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

0439-68-1711

三芳光陽園 : 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園 : 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

# 風と語りつづ

## 『残業させない仕事術』



十二月は別名、師走——あわただしく、せわしない月である。もともと、現代人は一年中忙しい。多様な人は、それなりに……。急ぎの用がない人も、忙しいフリをするのがエチケット？ 空気くらは読んでいる。でも、「モウレツ社員」が死語となり、趣味に生きる直帰派や家庭重視派が増えてきた。

とは言っても、日本人は勤勉だ。残業が当たり前になっている企業もある。予算は限られ、ほとんどがサービスク残業。「そのことイコール頑張っている」と、管理者は考える。そして、お役人からならまらる。

福祉施設の現場でも多くの職員が、利用者と関わる業務の終了後、事務仕事に追われる。活動やケースの記録、支援計画立案や行事準備など——それらは勤務時間の中でやり切れず、終業後も机に向かひつづける。

それがスウェーデンでは、ほとんど残業がないらしい。日本のどこの福祉施設にもある職員室というものもない。責任者の事務室があるだけだ。現場職員の事務仕事は、活動ルームの片隅に机を置いてやっている。もちろん、職員一人ひとりに専用の机はない。したがって、事務仕事も少ない。それは利用者の管理をしないから。「普段、人は他人に生活を

管理されない。障がい者も同様だ」とスウェーデン人は考える。

それはさておきH学園でも、終業後、パソコンに向かう職員の姿が、毎日のように見受けられる。日中は利用者と接する時間——となると、事務仕事は必然的に送迎や園内清掃が終わってからになってしまう。

そこで、Kは考えた。

ハウツー本を立ち読みし、インターネットで検索し、残業させない仕事術のノウハウを手に入れる。

ところが書かれてあったのは、

「優先順位をつけて仕事をさせること」

「時間を有効活用させること」

この程度ならまだいいが、



「段取り良く仕事をさせることが重要で、そのためには『段取り』が必要」とくると、もうお手上げ。凡人には理解し難いことが書いてある。

そこで、更に考えた。

「仕事仕分けを……」と思ったが……。

「それは、やんなきゃならないものなのか？」

「明日じゃ、いけないのか？」

とは、仕事に集中している職員に、とてもじゃないが言えはしない。要領よくできることが、そんなに無いのは解っている。

自分はさっさと帰ればよいのだが、それだと部下に示しがつかない。管理者稼業も楽じゃない。

結局、早く帰って晩酌でもと思う気持ちを抑えつつ、用もないのに椅子を温める。アフターファイブは夢の夢。自分に甘い管理者は、いつか己が仕分けの対象。

「……ん、それは、ますい！」

そこで、またまた考えた。ハットひらめくグッドアイデア。

最後の手段は、

「職員室から机を無くそう」

「ついでに、パソコンキーのタッチ回数限定だ」

「……それじゃあ、駄目じゃん！」

隣で残っている職員がやっているのは、悩み苦しむ新聞の原稿書き。

これがなければ……。



(管理者K)

残業させない仕事術を問われた私Kとかけてこわれた電子レンジとく

(その心は?)

かいとうできない



ねずち?です。

# 園だより

## 『頑固者 義宏さんの名誉挽回』

一週間のおしごとの気働きを終え、やっと待ちに待った日曜日。

(家でのおんびりするのもいいが、外出したい！)

そんな何気ない気持ちをもっているだろう義宏さん。その日は、なんとバス外出を何人かするらしい…と噂？を聞きつけたのか、昼食後真っ先に玄関に向かい、バスに乗る気満々の義宏さん。

やっとこさバスに乗ると、隣には…

一緒に住んでいる憲さんではありませんか。憲さんと言うと、目鼻立ちがくっきりし有名な王貞治似。良い男前なのだけれど、ここ数年、物噛みが激しくなり、気が付けば上着の裾などを穴が開くほど噛んでいる。昔から断続的にこの状態に陥って、そのときは顎の筋肉が発達してしまう。いわゆる「えらが張る」と先輩から聞かされた。原因は病院へ行っても、いまだわかっていない。

何かのストレスか寂しさなのか…

憲さん自身、何かを訴えようとしているのかわかりません。今できることは、一緒に手を繋ぎ、寂しさを紛らわしてみたり、一緒に散歩、時には走ってダッシュ！ できる限り、ストレスを発散してみたりと、憲さんの関わりを多く持ち続けることです。

そのお二人が隣同士に。

バスが走り出し、僕がガイド役を始めて間もなく、バス内に義宏さんの大きな声が響きわたりました。



職員全員が声のした方に振り向くと、憲さんが上着を口いっぱい押し込んで噛んでいるのを、義宏さんが両手で一生懸命止めようとしているのが目に飛び込んできたのです。けれども、憲さんも負けじと上着を握り締める手に力が入っている様子。義宏さんだって、これまた「頑固者」！ 負けていません。なおのこと止めようと必死です。

どっちが勝つか気になるこの勝負…  
【頑固者】の義宏さんの勝利でした。



勝利をおさめた義宏さんは、ちょっと僕を叩き、

見てたか？ 俺が勝ったんだ！

と笑顔で教えてくれたさりました。僕には、それ以上に、(キミはどこを見ていたの?)と問いかけてくるようにも見えました。

その後、外出から帰り、職員の話は義宏さん一色に…。

義宏さんがつばやきながらテレビ見ている。

やっぱり俺がいなきゃだめだなー。と言わんばかり…。

とある休日のことでした。

(駒沢)

# COCO de COCO



「えっ、ほんとに?」

勝手の家の山口三夫さんは夕食後に「コーヒー」を飲むのを毎日の楽しみとしている。食事が済むと、支援員や夜勤専門員に「コーヒー」を出せと、手を取り引いて行く。はじめは、食器棚の前で戸に触れるだけだったが、「まだ早いわよね」とか、「飲みすぎだよね」などとうまくかわされるものだから、三夫さんは、実力行使にでた。

食器棚の戸を自分で開け、食卓上に「コーヒー」カップを並べてアピールするようになったのだ。そのうち、飲み方にも変化があらわれた。



実は、彼は猫舌なのである。水入れをセットで持ち出してホット「コーヒー」を薄めようとした。職員が氷を勧めると、その次からは、必ずロックアップの袋を持ち出すようになった。コーヒーカップもガラスコップに変わり、ミルクも手にし、ストローで飲みやすくになると、それも必携のアイテムになって、ご満悦の夜が増えた。



ある日のこと、紙パックのアイスコーヒー

に付いていたミルクの賞味期限が切れていることに気づいた職員が、

「このコーヒーミルク賞味期限が切れているなあ。賞味期限は裏に書いてあるので切れていないものと換えてくれますか。」

と言いつつ、もう一人の職員が新しいミルクを取り出して三夫さんに手渡したら、おもむろにミルクを机に置いて裏返し、賞味期限の書いてある所をまじまじと見つめてから、入れてくれと手渡してきたのだった。

「えっ、ほんとに?」

三夫さんの行為は、確かにしかつめらしく賞味期限を確認している姿に見えたのだった。

(どんどんやるのが高度になっていく。)

「おそろべし! 山口三夫さん!」



## ローカルニュース

### 新メタボ三人衆のその後

メタボの克服を誓ってから一年。「ダイエットの戦い」にまず勝利したのは、「COCO」の小林さん。百キロあった体重を二十キロ減らすことに成功。リバウンドもなく、日夜



努力を続け、軽やかに体を動かしている。(拍手)

道博さんは、毎日、スーパーへ歩いて買物へ。重い荷物を抱えての努力だったが・・・無念に

も、体重はいっこうに減らず、こう着状態に。今回の健康診断でイエローカードが出してしまった。

三人衆の筆頭、職員の庄司は、「ダイエットの戦い」を甘く見ていたせいで、とうとう、医師からレッドカードを突きつけられた。やんややんや、

「命があぶねーぞー」

とガイヤの声におどかさね、ブルーになるやら、あせるやら。初めてマジになった。

小林さんが抜けて、新たにこの戦いに参戦した「勝手の家」の金子さんに加え、新メタボ三人衆を結成。三人とも、以前のように食事制限にも不満を見せず、目標値を目指して、真剣に取り組んでいる。一番に苦境を抜けるのは・・・、



「だーれだ?」  
(俺だ、俺だ、と言いたい庄司)



道博さんです



金子さんです



庄司です

がんばろーぜー!

# 太陽のしずく

十一月十一日、かねてから計画していた起震車を使った総合防災訓練が行なわれました。震度7の地震や、火災の際の煙の怖さを体験しました。予想以上の臨場感に、皆さん、あたふたの初体験でした。(ち)



## 起震車がやってきた



震度6

遊園地のアトラクション感覚で楽しんでいた人も・・・。

思ったより激しい揺れではないけれど、揺れが続くとものすごい不安がおそってきます。

震度7体験



自分の身しか守れません！  
自分が助かることしか考えられません！

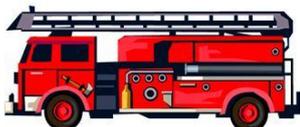
あ"つ～



### 水消火器実演



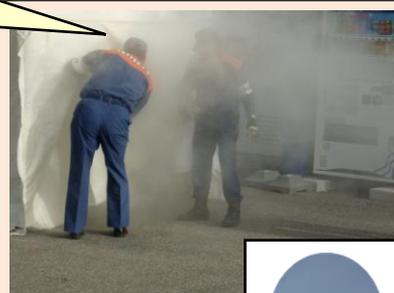
はじめて、ぼくたちもやってみました。体験してみるもんだね。消防士さんも熱心に教えてくれたよ。



震度7  
うそやろおー。

目のあまり見えていない佐藤君。起震車の揺れる音や、周りの雰囲気から、身に降りかかるであろう何かを感じ取ったようです。「あぶない・あぶないよ… あぶない」と言って、後ずさりして逃げて行きました

「大丈夫ですか？  
こっちは、  
こっちは



俺たち今まで、煙を甘くみてたなあ…



ゲホ・ゲホッ ひどい！  
大丈夫じゃない…

中はこんな状態  
です。  
何も見えず、息  
苦しい。

# ひかり通信

## 『空気の読める男』

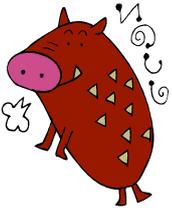
今年の学園畑は、猪の被害で壊滅状態です。二百株の芋は全滅し、又夕場にされ、畑へ行くたびに嗅いでいます。

先月、そら豆を植え付け、水やりをした際に「猪は人間の匂いを嫌うから、自家製の水（小水）でもいいぞ」と股を押さえてジョークをかましました。直後、素早い行動で忠実にアドバイスに応じてしまった男を弁護します。

- ① 今まで畑作業中に、それをしたことはない。
- ② 出た量はチョロっとで、せっぱつまっての行為ではない。
- ③ 走って行って行為に及んだ場所は、彼が参加する栽培チームの専用畑だった。

身をもってチームを救おうとした英雄の正体を、制限字数の許す限りお伝えします。その方の名はイオ。

(読めない男)



## 『誰かに必要とされること』

### 第一章

昨夏の出会い以来、幾度かの話し合いを経て、今年十月より長狭ブルーベリーヒルズで農園作業体験を始めました。現状、週一回ペースで継続しています。チームは淑子さん、健さん、章雄さんと私が固定援農メンバー。この他、延べ六名の方が体験的に参加しています。

初回は、正直「体験させてもらえるだけで御の字」の気持ちでした。それが、私の想像を覆した三人の働きぶりにより、二回目終了時には「この区画の除草管理は、全てひかり学園にお任せする」と言ってもらえました。

三回目には「ここまで出来るのなら、こっちも」。七回目には「もっと、やり応えのある、そっちも」と難易度の高い区画も任されています。

こうなったのは、きちんと人間を認めてもらえる居心地の良さ——初回の体験前日に挨拶訪問した際、社長さんは一人一人に向き合い、名前をメモしていました。そして翌日には「君は石井さんだったね。今日は宜しく」のように、一人ひとりに語りかけて下さいました。

加えて、長狭平野中央に位置した農園の解放感が、三人のパワーを呼び起こしたのでしよう。

持っている魅力全開で、実のびのびしている淑子さん。学園内での元気さえ仮の姿なのかと痛感します。大変失礼ながら、章雄さんにストイックと形

容詞を使うことになるなんて……。ただ黙々と作業する姿には、無条件に必要とされたことへの想いが溢れていて、圧倒されます。

その二人をも差し置いて、真っ先に作業場へ飛び込んでいくのが健さんだということが、最大の驚きです。学園の畑作業では見たことのない姿です。行動に移す為のウォームアップ行動、いわゆるこだわり行動が一切無いのです。

物おじもせず、遠慮も気後れも無く、ただただ自然体であるだけの三人。休憩時間にふとしたことで笑い転げるのを共有できる至福感。

近いうちに、「第二章」を報告します。そういうえば、ケアホームCOCOに贈ったブルーベリーの苗も、おすそわけが届く位の大きさに育ったことでしょう！

(任本)



# 学園新聞



「おいしかったね!」

「今日のお昼の献立は・・・」

職員がメニューを読み上げます。今日は収穫祭、利用者の皆さんと学園で採れた野菜を使い、豚汁作りにチャレンジします!



屋外にコンロ、鍋を持ち出して、豚汁作りスタート! 利用者の皆さんにも会場作りを手伝ってもらいます。いい匂いがしてきた所で、ちょっと味見してみる?

さあ、風ご飯が出来ました! 豚汁、サツマイモの煮物、おにぎり・・・学園で収穫したお米、サツマイモ、ネギ等が使われています。



「おいしい!」 皆が口々に言ってくれます。屋外で食べているという事も、気分を盛り上げてくれているのかな?



大好評だった今年の収穫祭。来年は何を作ろうか、乞うご期待!

(鹿島)

## 「犯人は?」

「このカーテンのフックが無いわ!」

「テーブルの高さ調整用のネジが外れてて、見つからないんだけど・・・」

「さっき、畑で採ったミニトマトをここに置いておいたけど、どこ行っちゃったのかしら?」

そんな事を言っている職員たちの目は、トシナリさんに向けられる・・・ いやいや、疑っちゃあ、いけないんですけどね。とこゝろでトシちゃん、ポケットの中、見たいなあ・・・

少しためらいながら、しかめっ面でポケットの中身を見せてくれたトシナリさん。彼の宝物であ

る大きな洗濯バサミ、極太輪ゴムと一緒にポケットに入っていたのは・・・ あった! カーテンフックとテーブルのネジ・・・

「いいの?」 開き直ったのか? トシナリさんは急にニコニコ笑顔でおねだりの態勢に・・・ いえ、あの、出来れば返して欲しいんですけどね、とこゝろでトシちゃん、ミニトマトは知ってる?

笑顔でダンマリを決め込む? トシナリさん。

いいですよ、トシちゃん。お母さんの証言を聞いてきましたから!

「うちの子はねえ、ミニトマトが大好きなの。裏庭で作っているミニトマトを全部、摘んで食べちゃうんだから! えっ、トマトが無くなった? うちの子が食べちゃったのよ、きっと。」

今日もポケットに手を入れて、中で何やら「ソソソ」としているトシナリさん。彼の満面の笑顔を見ながら、

「今日は何が入っているんだろう?」  
と、私たち職員は不思議な期待感? をもってしまつのです。



(伊東)

# 光陽

## 『八代亜紀コンサート鑑賞ツアー』

十月半ばに南総文化ホールへ踊りの会を観に行ったときのこと。武美さんが八代亜紀のデビュー四十周年コンサートのポスターを見かけました。コンサートが大好きな武美さんですから、帰りのバスの中で「まだ行きたいねえ」と、しきりに言っておられました。

こういう話には耳が早いお年寄りたちは、「私も、私も」と話にのって来て、バスの中は大いに盛り上がりまして、とうとう『八代亜紀コンサート鑑賞ツアー』がまとまったのでございます。

さっそく、チケットを手配することになりました。けれども、販売開始から日にちがだいぶ経っていて、館山のあちこちに電話しましたが、あいにくと良い席がとれません。鑑賞ツアー仲間の千春さんも事務所に来ては、事務の加藤みどりさんの肩をたたきながら、「取れるかねえ」と心配顔でございました。

考えあぐねて、「一か八かやってみよう」とコンサートを主催している会社に直接電話したら、これがなんとまあ、一列目と四列目の席が手に入ったではありませんか。やってみるものですねえ。

こうして、十一月十三日、南総文化ホールで開催された八代亜紀のデビュー四十周年「コンサート」にお年寄り五名と職員二名の合計七名で行って来たので

ございます。

一時間半のコンサートは、あっという間に終わりました。前半は少し乗りの良い曲、後半はお父さんとの思い出を語りながら、父と子の絆をテーマにした曲を歌われていました。なかでも、二十三年間刑務所でのコンサートを続けていることや家族や親を大切にしようねと語りかけていたのが印象的でした。

ホールを後にしても余韻冷めやらぬ皆さんは口々に、

「八代亜紀、思っていたよりきれいだったね、良かったね」と、しみじみ。

（思っていたよりって…。皆さん、どんなふうに思っていたのでしょうかね…。）

この鑑賞ツアーのきっかけになった武美さんは一列目に座った特権で八代亜紀さんと握手できたのでした。その後、手を洗わなかったという話までは聞きませんでした。とても喜んでおられました。

（もちろん私も握手しましたよ。）

そうそう、コンサートの帰りに八代亜紀が描いた油絵が載っているカレンダーを皆さん、買って帰られました。今、武美さんのお部屋の枕元にも大事に飾られているのでございます。



後日、ツアー参加の皆さんと顔を合わせた際に、

「コンサート良かったね」

「お世話さまでした」

「ありがとね」

などと笑顔で言われまして、嬉しさもひとしおでございます。これからも、お年寄りの方々の希望が少しでも叶うよう、それぞれに楽しみを持って生活していただけますよう、お手伝いをしていきたいと思っています。

中村 健二

### 【編集後記】

故鈴木栄理事長の遺作「特別養護老人ホーム」をPDFファイルにする作業が終了しました。三芳光陽園のホームページにアップしてあります。皆様、ぜひご覧ください。編集しながら読み返しましたが、

『なるほど』と思う部分と、

『うくん』と思う部分と、

『本当?』と思う部分と、

その他諸々。

いろいろ考えさせられました。



法人広報担当 神谷